



もうすぐ入試本番 親子で受験を乗り切る コンディションづくり

年が明ければすぐに受験シーズンがやってきます。塾や学校で頑張った成果を発揮するためには、直前のこの時期をどう過ごすかがポイントです。今回は、最高のコンディションで受験に臨むための「心身を整える直前対策」を紹介します。

心も身体も学力も 最終調整の段階に

まだまだと思っていたら入試本番までもう数週間。この時期は、学力だけでなく心身ともにコンディションを整えることが大切です。

受験勉強の総仕上げは、新しく知識を詰め込むよりも今までの学習を振り返って、取れる点数を確実に取るための技術を身につけましょう。得意な分野ではミスが極力少なくして確実に点数につなげる。また、時間配分を意図して過去問題に取り組みなど、試験攻略法も

子どもは受験で想像以上のストレスを抱えています。叱咤激励のつもりで「お姉ちゃんではきたのに」など、能力を否定したり、他の人と

比較する言葉はやる気を失います。入試で本領を発揮するために、叱るよりも誉めて自信を与えてあげましょう。



今後を 見据えた受験で 教育改革の 波に乗る

文部科学省の教育改革に伴い、プレゼンテーションやグループ学習を取り入れた生徒参加型へと学校の教育方法が変わり始めています。2020年には大学センター試験に代わり、思考力・判断力・表現力をはかる新入試制度が導入予定です。教育改革の今目の前の入試だけでなく、将来の大学受験や就職に繋がる教育情報も常にチェックしましょう。

入試直前にやっておきたいことリスト

子ども

- ✓ 今までの勉強を復習して得意分野を強化する
- ✓ 時間配分に注意してテスト攻略法を決める
- ✓ 当日のイメージトレーニングをする
- ✓ 早寝早起きをして健康的な生活を心がける

保護者

- ✓ 栄養バランスのよい食事で健康管理をする
- ✓ 朝型の生活リズムを整えるように促す
- ✓ 叱るよりも誉めて精神面をサポートする
- ✓ 風邪やインフルエンザなど家族全員の病気予防に留意する



No.61 発売中 取材協力 私立中高 進学通信 関西版

「2030年の世界はどうなっているのか」という議論が、世界や日本の教育界で熱を帯びています。15年後の世界がどのようになるのか、どのような能力が必要となるのか…今後15年間、子どもにどのような教育環境を与えるかは、わが子の将来の進学や職業選択、生き方に大きな影響を及ぼすかもしれません。大学入試も変われば、中学入試も変わります。そこで求められる学力はどのようなものか、長いスパンで教育について考えてみましょう。

進学通信に關してのお問い合わせはエデュケーショナルネットワーク TEL.06-6352-8553

関西の私立学校ナビゲーションサイト <http://www.shigaku.net>

進学通信関西版のFacebookページを開発しました!「いいね!」してね。



Ryosuke MAEDA
前田凌佑選手 [MF.32]
生年月日/1994.4.27 身長・体重/172cm・65kg
出身地/兵庫県姫路市

神戸のJリーグクラブ・ヴィッセル神戸を応援しよう

ヴィッセル通信



来季は主軸としての活躍を期待したい 輝く時を迎える神戸の若きボランチ

2013年に神戸U-18より、トップチームに昇格した前田凌佑選手。しかし、2年間でチームで公式試合に出場したのは天皇杯の1試合のみ。覚悟をもって臨んだ2015年シーズン、大きな成長を見せてくれた。



穏やかな印象の前田選手だが、意外と熱くなってしまうタイプだそう。プレー中のこんな真剣な表情もカッコいい!!

ネルシーニヨ監督の期待に応えたい

今季、ネルシーニヨ監督に替わったことで、前田選手にも大きなチャンスが巡ってきた。「1年目、2年目と、まったく試合にからめず、悔しい思いをしたので、今シーズンなんとしても試合に出たい。それが出来なかったら、もう後が無いという覚悟で、キャンプから全力でアピールしてきました」と話す前田選手。その兆しは沖縄での一次キャンプ後、神戸に戻ってからの紅白戦でいきなりAチームのピブスを渡されたところから始まる。「正直、間違いだと思っただけです。だから、え!? って顔をしてしまいました(笑)。本当に横一線のスタートなんだ、監督はしっかり見ていてくれるんだ、と実感できました。だからこそアピールを続けていこうと、この1年間、高いモチベーションで練習に取り組みることができました。若手である自分たちが底上げをしないと、チームは強くない。そういういい緊張感が練習の

前田選手のユース時代

小学2年生の時に、日韓ワールドカップを見てサッカーを始める。小学6年生の時に神戸U-15のセレクションを受けて合格。中学時代は、地元姫路から1時間かけて、平日は王子公園の練習場に、土日はトップチームの練習場でもあるいぶきの森球技場(神戸市西区)に通っていた。この神戸U-15時代に、第24回日本クラブユースサッカー選手権大会と高円宮杯の全国2冠を達成した。

自分の強みはパスでリズムをつくること

前田選手のポジションは、中盤の要であるボランチ。「攻撃も守備もできないといけないので、守備では相手のボールを奪い取り、攻撃でもどんだんボールから入って、パスでリズムをつくるというプレーを目指しています。監督に特に言われるのがポジショニング。やはり上がりすぎたり、逆に下がりすぎたりすると、相手に付け込まれるスペースを作ってしまうので。その重要性を教えてもらったので、そこはしっかり考えるようになりました」。

パリ・サンジェルマンFCのヴェラッティ選手が目標

そんな前田選手と同じボランチで好きな選手を聞いてみた。「FCバルセロナのブスケツ選手とパリ・サンジェルマンFCのヴェラッティ選手ですね。ブスケツ選手は技術が高くミスも少ない選手で、目標にしているんですけど、ヴェラッティ選手は身長も僕くらいで、あんまり大きくない中でも、そういうレベルの高い国でサッカー

来年もヴィッセル神戸を熱く応援しよう!!
2016年度シーズンシート 好評発売中!
詳しくはヴィッセル神戸ホームページにて www.vissel-kobe.co.jp
☎078-651-1222(平日10:00~17:30)
FAX 078-685-5502

今年、背番号32の自分のレプリカユニフォームを着ている人を初めて見かけて、とてもうれしかったという前田選手。「来季は、それこそ全員が僕のユニフォームを着てくれるぐらいの活躍を見たいですね!!」と秘めたる野望を語ってくれました。そのイケメンぶりに、活躍すればさらに注目度が上がることは間違いないことをここにお伝えしておきます。

「タクはU-22代表でも主力で、ずっと呼ばれている。それはとてもうれしいし、応援しています。でも、いつかは自分もタクと一緒に代表のピッチに立てれば楽しいだろうな...」と思っているの、狙っていたんです。そういう意味でも来季はさらに大事な一年になると思います。得点につながるようなアシストやゴールなど、目に見える結果を出して、チームを上位に導きたいですね」。

by 編集担当まつづ